

6月22 - 26日週のドル円レビュー

June 29, 2009

米長期金利と世銀景気見通しに揺れる

High : 96.58 円 Low : 94.88 円

Close : 95.24 円

今週の注目は FOMC と過去最大規模となった米国債入札に集中。また市場は FOMC で国債買い取りの増額を期待していたが、買い取り額は据え置きで、思惑のドル買いが剥落した。同時に米 2・5・7 年債入札が、好調な落札結果となり債券が買われ、長期債利回りが低下。ドル売り優勢となった。そして世界銀行の景気見通し下方修正などもドル材料に。週央、スイス中銀のスイスフラン (CHF) 売り介入実施を受けてドルが全般的に買われ、ドル円も 96 円台を回復したものの後が続かず、レンジ下限で推移した。

6/22 (月) 95.88 円

ドル円は、クロス円の売りに押されて 96 円前半から 95.79 円まで下落。NY 時間に世界銀行が世界経済の見通しを下方修正したことや原油が急落したことから株が急落。ドル円は小幅ながら 95.72 円まで続落した。

6/23 (火) 95.24 円

ドル円は、95 円以下が底堅く、ドル売り持ちの解消で 95.65 円まで上昇。NY 時間で更に 95.90 円まで買われたものの、結局は米金利下落で 94.88 円まで下落した。

6/24 (水) 95.80 円

ドル円は、95 円前半で小動きだったが、スイス中銀のドル買い・CHF 売り介入に反応し、ドル円も 96.07 円まで上昇。だが、その後は 95.50 円まで反落した。

6/25 (木) 95.98 円

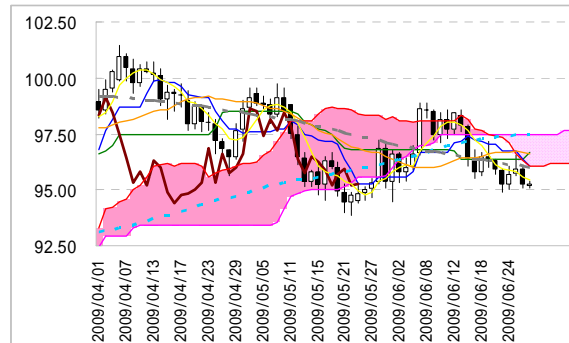
ドル円は 96.58 円まで上昇したものの、NY 市場で米債権利回りが低下すると 95.72 円まで反落。バーナンキ FRB 議長は議会証言で、メリルリンチ買収に関してパンク・オブ・アメリカに圧力を加えたことを否定。

6/26 (金) 95.24 円

中国人民銀行が「一部の準備通貨への依存軽減を世界に求める」との報道でドル売り優勢。ドル円は 95.40 円まで下落。NY 時間も中国の報道が上値を抑制して 95.04 円まで下落。95.24 円で引けた。

| 月日 | High | Low |
|----------|---------|---------|
| 6/22 (月) | 96.33 円 | 95.72 円 |
| 6/23 (火) | 95.97 円 | 94.88 円 |
| 6/24 (水) | 96.07 円 | 95.03 円 |
| 6/25 (木) | 96.58 円 | 95.62 円 |
| 6/26 (金) | 96.05 円 | 95.04 円 |

ドル円の推移



テクニカル短期・中期ポイント

97.49 (日足一目均衡表・雲の上限)

= = 先週末の NY クローズ 95.24 円 = =

93.85 (5月22日安値)

米国の重要指標結果

6/23 (火) [結果] (前回)

5月中古住宅販売件数 [477万件] (466万件)

6/24 (水) [結果] (前回)

5月新築住宅販売件数 [34.2万件] (34.4万件)

米連邦公開市場委員会 (FOMC) 金融政策決定

目標レンジ 0.00-0.25%、国債買い取り額を据え置き

6/25 (木) [結果] (前回)

1-3月期 GDP・確報(前期比年率) [-5.5%] (-5.7%)

1-3月期個人消費・確報(同) [+1.4%] (+1.5%)

新規失業保険申請件数 [62.7万件] (61.2万件)

6/26 (金) [結果] (前回)

5月個人所得 [+1.4%] (+0.7%)

アウトルック ダイジェスト版

レンジ : 94.00 - 97.00 円

今週金曜は米国が祝日のため、米雇用統計は前倒しで2日木曜となる。基本的にマイナス幅が再拡大と予想されており、更に利上げ観測後退の様相。米景気指標の結果でドルの上下の振れが起きる展開と見るが、景気の下振れは金利低下 ドル売り 円高へ。そして金利が上昇した場合はドル高 株高 ドル円上昇に。本邦は1日に日銀短観の発表。若干の回復期待はあるが為替の影響は限定的とみる。また中国 PMI も注目か。いずれにせよ経済指標の一部が市場予想を上回っても大きなインパクトにはならず、米長期金利の低下がドル円の上値を抑制し、レンジ下限での展開とみる。